

第3問

次の文章は、『恋路ゆかしき大将』の一節で、恋路大将が大風の吹いた翌朝に参内する場面である。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点 50)

暁方にaなるままに、おびたたしう吹きまさりたる風の粉れに、いと疾う内裏へ参り給ひぬ。「今宵は中宮の御宿直なりけるが、下りさせ給ひけるままに、上は藤壺にわたらせ給ふ」と聞こゆれば、そなたさまへ参り給ふに、立て蒔など、よろづの所あらはに、例ならず見わたされて、姫宮の御方の御小壺の叢に、童へ下りて、虫屋ども手ごと^(注2)に持たり。御覽ずるとて、二宮、御簾を高くもたげさせ給へるに、十一、二ばかりにやと見ゆる御丈立ちにて、うつぶきて立ち給へれば、前へ靡き掛かれる御髪bの削ぎめふさやかに、絵に描きたらん心地して、まみ・額・髪cさし、かの雪の朝の御面影なるものから、なほけしき異にて気高う、匂ひも光も類なき御さまは、姫宮にこそはおはしますめれ。よろづのことに騒がず鎮まる御心も、ただ今はいかがはあらん、深く心騒ぎして、おどろかれ給ふ。我が上の空にも愛く浮きたつ心は、この御さまなどを朝夕見奉らんには慰めなんかし、さりとして当時(注4)、世の常に思ひ寄るべき御年のほどならねど、ただまばり奉らまほしきに、「あはれ、雛屋に虫のゐるよかし。一つにあらば、いかに嬉しからん」とのたまへば、二宮、「あらわろや。苔や露も入れさせ給はば、雛のため、いかにうつくしからん」と笑ひ聞こえ給へば、げにと思したるさまにて、まめだち給へる御まみのわたり、見る我もうち笑まれて、幾千代まばるとも飽く世あるまじきに、おとなしき人参りて引き直しつれば、口惜しうて歩み過ぎ給ふ。

A 宮城野にまだうら若き女郎花移して見はやおのが垣根に

参り給へれば、夜もすがら風に萎れける前栽御覽して、端つ方におはします。女御は、いと薄き蘇芳に吾亦紅の織物ひき重ねて奉れる御さまの、ありつる御面影ふと思ひ出でらるるも、なつかしき心地すれど、殊に見やり奉らぬさまなり。朝顔の枝を持給へりけるを、御前に参らせ給ふ。

B 朝顔の朝露(注8)ごとに開ければ秋は久しき花とこそ見れ上、「おのづから榮えいを為なす」とうち誦ずんじさせ給ひて、

C 千年ちとせふ経る松にたとふる朝顔のげにぞ盛りの色は久しき

大將は、ありし御面影の身を去らぬままに、奈良にこそこまかなる細工はあんなれと、召し集ひへたるに、虫も雛も一つに濡ぬれて苦しみあるまじきさまにしつらはせ給へる雛屋のさま、御心の際きは、そこひなくめづらかなり。雛多く人に作らせて据たゑ給ひつつ、藤壺に奉らせ給ふ。「思ひかけず人の賜たまひて侍るを、参るべき御方もやとてなん。上の見参けざんにも入れさせ給へ」と、
〔大納言の君〕と上書きして奉り給ふ。物の端に、
(注9)

D 松虫の千年の例たとしあらはれて玉の台(注10)の家居をぞする

上もこの御方にて、もて興おこせさせ給ふに、中納言(注11)の乳母めのと、「これは、野分のわきの朝願はせ給ひしものになん侍る。『世の中あらはに侍りしに、二宮の御簾をもたげさせ給ひしに、つくづくと見入れて立ち給へりし』と、後に人の申し侍りしは、まことなりけり」と聞こゆるを、**X** 上、いとも興あり、えならぬことに思されて、笑み入らせ給ふ。さりとも世の常におどろかれぬ数には思はじものを。いかで心動かさするわざせんと、なべてかなはぬ世も怨うらめしきに、これをさも思ひ聞こえんはおもしろきこと、と思さるるぞ、めづらしき人の御癖なる。御返し、上、

E 雲居なる千代松虫ぞ宿るべき君が磨ける玉の台に

事しもこそあれ、いつしかねぢけたる御祝いのちひ言なりや。待ち見給ふ御心地は、顔うち赤みて、いとど身のほど心おごりし、上の御(注12)ならはし・御心ざしをぞ、この世のみならず思ひ続け給ふ。

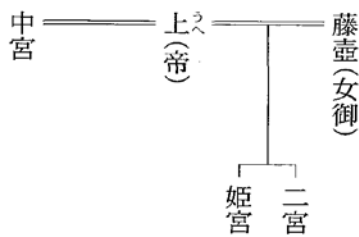
我が御殿の三条院のおほかたの寝殿にはあらで、また磨き造らるる西(注13)面に、九間(注14)ばかりなる所に、雛屋を作り続けて、九重の中の有様、旧ふるき名所名所も、変はらず写し作らせ給ふとて、指(注14)図よ何よと、これよりほかのことなくしつらひ置かせ給ふを、「何(注13)とぞち」と、**(ウ)** つきしろひ煩わづひ聞こえけり。我が御心地にも、そぞろ **d** なることかなとをかし。

F 我ながら言ふかひなやと思ふかな野なる虫にも宿を占めさす

かつはをこがましう、かかるいたづらごとのし置かるるも、上の空なる心化粧(注15)なり。その年も暮れぬ。

(注)

- 1 小壺——小さな中庭。
- 2 虫屋——虫かご。
- 3 かの雪の朝の御面影——昨年の冬、帝みかどは藤壺女御の姿を恋路大将が見るようにしむけたことがあった。
- 4 当時——現在。
- 5 宮城野——宮城県仙台市東部の平野。ここでは、宮中の意味が込められている。
- 6 蘇芳——黒みがかつた赤色。
- 7 吾亦紅——秋に暗紅紫色の小花をつける草。ここでは、それをかたどつた織物の模様。
- 8 おのづから栄を為す——「松樹千年終つひに是これ朽ちぬ 權花まんくわ一日おのづか自ら栄を為す」(『和漢朗詠集』秋・權あさかほ・白居易)の一節。
- 9 大納言の君——藤壺女御付きの女房。
- 10 玉の台——豪華な建物のこと。
- 11 中納言の乳母——姫宮の乳母。
- 12 御ならはし——恋路大将に対する帝のお引き立て。
- 13 九重——宮中のこと。
- 14 指図——見取り図。ここでは、雛屋の図面のこと。
- 15 心化粧——相手によく見られようと、自分の言動や容姿に気を配ること。



問2 波線部 a と d の文法的説明の組合せとして正しいものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。解答番号は

24

- | | | | | |
|---|------------|-----------|------------|------------|
| ① | a 動詞 | b 断定の助動詞 | c 伝聞推定の助動詞 | d 形容動詞の一部 |
| ② | a 伝聞推定の助動詞 | b 断定の助動詞 | c 動詞 | d 断定の助動詞 |
| ③ | a 動詞 | b 形容動詞の一部 | c 断定の助動詞 | d 伝聞推定の助動詞 |
| ④ | a 動詞 | b 形容動詞の一部 | c 伝聞推定の助動詞 | d 形容動詞の一部 |
| ⑤ | a 伝聞推定の助動詞 | b 動詞 | c 断定の助動詞 | d 形容動詞の一部 |

已然形
に接続
する。



連体形
に接続
する。



終止形
に接続
する。



連用形
に接続
する。



未然形
に接続
する。



a

暁 <small>あかつき</small> が <small>が</small> た <small>た</small> に <small>に</small>					
なれ	なれ	なる <small>なる</small>	なる	なり	なら
命令	已然	連体	終止	連用	未然

ま
ま
に

ななるが終止形に接続し
ないの
で四
段活用
連
体形

※助動詞か、伝聞推定
の助動詞かを問う。

b

御 <small>ご</small> 面 <small>めん</small> 影 <small>かげ</small>					
なれ	なれ	なる <small>なる</small>	なり	なりに	なら
命令	已然	連体	終止	連用	未然

もの
から、

ななるが名詞に接続している
ので、
断定の助動詞連体形

※断定に助動詞か、形容動詞
の一部か、動詞かを問う。

c

奈良にこそ

係助詞

奈良にくくあるそうだと

※自立語・文節の始めになる語

あれ	あれ	ある	あり	あり	あら	
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
	○	なれ	なる	なり	なり	○
	命令	已然	連体	終止	連用	未然

あ(る)なれ
あんなれ

結び

と、召し集へたるに、

伝聞推定でも、ラ変型には連体形接続。

c

※伝聞推定の助動詞か、動詞か、断定の助動詞かを問う。

自立語ではない↓動詞×前後の意味(奈良・召し)で判断する。伝聞推定の助動詞已然形

d

そぞろ

d

なれ	なれ	なる	なり	に	なり	なら
命令	已然	連体	終止	連用	連用	未然

ことかな

形容動詞の連体形

※形容動詞の一部か、断定の助動詞か、伝聞推定の助動詞かを問う。

「そぞろ」は主語になれないので、体言ではない↓連体形接続の断定×。終止形接続ではない↓伝聞推定×

後半はカラーなしです。

a

		暁 <small>あかつき</small> が たに			
なれ	なれ	なる <small>な</small>	なる	なり	なら
命令	已然	連体	終止	連用	未然

ま
ま
に

a

なるが終止形に接続して
いないので四段活用
連体形

※助動詞か、伝聞推定の
助動詞かを問う。

b

		御 <small>ご</small> 面 <small>めん</small> 影 <small>えい</small>	体名 言詞		
なれ	なれ	なり <small>な</small>	なり	なり	なら
命令	已然	連体	終止	連用	未然

もの
から、

b

なるが名詞に接続しているの
で、断定の助動詞連体形

※断定に助動詞か、形容動詞
の一部か、動詞かを問う。

c

奈良にこそ

係助詞

奈良にくくあるそうだと

※自立語・文節の始めになる語

あれ	あれ	ある	あり	あり	あら
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	○	なれ	なる	なり	なり
	命令	已然	連体	終止	連用
					未然

あ(る)なれ
あんなれ

伝聞推定でも、
ラ変型には
連体形接続。

結び

と、召し集へたるに、

c

※伝聞推定の助動詞か、動詞か、断定の助動詞かを問う。

自立語ではない↓動詞×前後の意味(奈良・召し)で判断する。伝聞推定の助動詞已然形

d

そぞろ

d

なれ	なれ	なる	なり	に	なり	なら
命令	已然	連体	終止	連用	未然	

ことかな

形容動詞の連体形

※形容動詞の一部か、断定の助動詞か、伝聞推定の助動詞かを問う。

「そぞろ」は主語になれないので、体言ではない↓連体形接続の断定×。終止形接続ではない↓伝聞推定×